

桂園拾葉  
上

特別  
イ4  
3163  
19(1)





肩に點を施したるは 敷子刀目の道



桓園宗近撰草稿

春歌

立春日のうらみ

康民

春の戸のめりて春歌のきも先を宗近のしとて春をけり

残巻

春の戸のめりて春歌のきも先を宗近のしとて春をけり  
えり咲ぬ花を

法念寺

春の戸のめりて春歌のきも先を宗近のしとて春をけり  
えり咲ぬ花を

春の戸のめりて春歌のきも先を宗近のしとて春をけり  
えり咲ぬ花を

御樹

春の戸のめりて春歌のきも先を宗近のしとて春をけり  
えり咲ぬ花を



香

立春日

えりては春のうらみ

春の戸のめりて春歌のきも先を宗近のしとて春をけり

春のきりぎりす

信岩

梓ららるる春のきりぎりすのうらひなき

春のきりぎりす

重高

この春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

正月のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

野澤始迎春

直好書

春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

試筆

清樹

春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

正月のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

強香

春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

早春霞

重見

春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

早春霞

晴杯

春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

早春月

本子西村

春のきりぎりすは昔のきりぎりすのうらひなき

初春詩記

康民

まじらひしやうもくもくはるるのうらみはつらき

嘉寿

正しくまらばりおれよまのめあやまのうらみはつらき

嘉寿

初春水

早春水

山川の氷とけゆく春水はあはれなるはつらき

嘉寿

るものやうもくもくはるるのうらみはつらき

雪のあはれあはれはるるのうらみはつらき

康民

可くまのうらみはつらき

清根

氷始解

氷始解

清根

雪のあはれあはれはるるのうらみはつらき

清根

雪のあはれあはれはるるのうらみはつらき

清根

雪のあはれあはれはるるのうらみはつらき

清根

雪のあはれあはれはるるのうらみはつらき

清根

雪のあはれあはれはるるのうらみはつらき

清根

春水

題不知

雪のあはれあはれはるるのうらみはつらき

清根

雪のあはれあはれはるるのうらみはつらき

清根

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

國典朝臣

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

頼厚

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

一成

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

清根

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

後念尺

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

三樂

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

清根

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

重高

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

後念尺

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

久毅

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

青馬

あまのこころのしづかにあはれみおぼせしるる

知紀

子日

さあなる夢のけきけんぬらぬ松子のあまや

諺念尺

おしりていふことね松原跡のうきおのたけをかり

玄如法河

一ぢめらむをさるる松子とあまのひきくけりぬ

三樂

おしりてあまの神のこし松のあまのあまのこし

正親子日

快存

あまの神のつきの神原建魂まらまらるる

清光

社頭子日

松のあまのあまの神のあまの神の

紀成山

意誠

あまの神のあまの神のあまの神のあまの神の

霞中子日

信秀山

二月十日

あまの神のあまの神のあまの神のあまの神の

霞

知晴

あまの神の

あまの神のあまの神のあまの神のあまの神の

山家

嘉邦

あまの神のあまの神のあまの神のあまの神の

清樹

あまの神のあまの神のあまの神のあまの神の

長経

あまの神の

あまの神のあまの神のあまの神のあまの神の

遠山霞

敏樹

墨子の浦にまつをさるるにうきみくしもの記のまに

海霞

とやみの横綱いくはるに一葉さねるちの海を

嘉邦

久しよあひの海をさるるにたれもあつ年

節

見らふのいまれ海霞のまかけしきさうたはもあは

知紀

波のうすむおけこみさるにさるるに

晴祿

正のなまの海はるは海霞のあつにまの海霞の

信好

揚子江の海霞をさるるに海霞のあつに

連流

海霞のあつに海霞のあつに海霞のあつに

海人志

海霞のあつに海霞のあつに海霞のあつに

直好

海霞のあつに海霞のあつに海霞のあつに

民一

海霞のあつに海霞のあつに海霞のあつに

海人志

海霞のあつに海霞のあつに海霞のあつに

久敬

水子

まやまのいしあけし海霞のあつに

あつに海霞のあつに海霞のあつに

湖霞

湖之霞

海霞のあつに海霞のあつに海霞のあつに

水迎霞

海霞のあつに海霞のあつに海霞のあつに

江上霞

海霞のあつに海霞のあつに海霞のあつに

野徑霞

海霞のあつに海霞のあつに海霞のあつに

雲霞



其意あるものなるをくしにありあはしむるの意の趣を  
してん。其の意の深き一をそのこゝろなる社ありき

名所 霞

法嶺

片島のありし所なる意のこゝろにむ少程。んのか計ふ  
林麻 霞

重見

栗田山ちつき所年の松原の縁ありふき意のこゝろ

霞 流 春 巻

正賢

己屋せけ文のありし。月より三きき意の趣のこゝろ

霞 浦 行 舟

重見

各門出 出島のりやたむん。とて意の趣あまの初子

月 前 霞

残賢

まごのてきるる。字のむ。意の月。あし。けり

重見

けくおろ海也。り。其意の趣。あまの月

馬 嶺 山 巻

假菴

けき。世の意の趣。あまの月。あまの月

着 崎 山

重見

馬嶺の意の趣。あまの月。あまの月

音

相一 平賀 安樂人

山甲の梅。ん。世の意の趣。あまの月。あまの月

重見

音。あまの月。あまの月。あまの月

直好

京入。あまの月。あまの月。あまの月

その意の趣。あまの月。あまの月。あまの月

白井 為子

ふたりの清のよき人なりきりてあつたものなる

初鳥

民一

そはあつた初鳥のまじりてあつたものなる

鳥告春

重見

初鳥のまじりてあつたものなる

山鳥告春

斐雄

そはあつた初鳥のまじりてあつたものなる

春来鳥遊

雄中

そはあつた初鳥のまじりてあつたものなる

春情在号

晴祿

そはあつた初鳥のまじりてあつたものなる

聞鳥

新島法沙

そはあつた初鳥のまじりてあつたものなる

霞裡聞鳥

文秋

そはあつた初鳥のまじりてあつたものなる

毎朝聞鳥

方忠

そはあつた初鳥のまじりてあつたものなる

高寿

そはあつた初鳥のまじりてあつたものなる

朝鳥

直好

そはあつた初鳥のまじりてあつたものなる

章子 光福寺

そはあつた初鳥のまじりてあつたものなる

時雨

至りてはつ里かたの暇ふけり 孫のやうなるものあり  
類不名 宗致 享壽

言ふ事なきはるもさるさるの暇あるはるもさる  
中 篤 宗致 享壽

包う屋の作をいせりさるもあはるもさる  
中 衷 篤 享壽

兵市の子けよと名取のさるもあはるもさる  
山家 篤 宗周

お清のさるもさるもさるもさるもさる  
親山

山さるもさるもさるもさるもさる

谷 篤

高砂の屋をいせりさるもあはるもさる  
直好

あはるもさるもさるもさるもさる  
野外 篤 松島清海

至りてはつ里かたの暇ふけり 孫のやうなるものあり  
中 篤 享壽

言ふ事なきはるもさるさるの暇あるはるもさる  
閑 中 篤 享壽

包う屋の作をいせりさるもあはるもさる  
柳間 篤 享壽

兵市の子けよと名取のさるもあはるもさる  
民一

雑中

九重のちびれ物まゝんぬまゝりききとくしとある

鷲群誘引来花下

享壽

梅むらさきのまよふ花あかくれまゝいふ

雪の結をむけ花を

あや花里より

重高

おとんは花のまゝに花を流しあやのまよふ花を

鷲群谷

重見

雪のうらたるとる花はたのまゝにちりて花を

雪のうらたるとる花はたのまゝにちりて花を

若菜

後念

しんじゆんじゆんじゆんじゆん

未通ゆき。神<sup>た</sup>別<sup>れ</sup>はてまの神れはたのまゝにちりて花を

時子

かく汁のまゝにちりて花をちりて花を

庵さくしの花はたのまゝにちりて花を

獨指若菜

京周

おとんは花のまゝにちりて花を

題不知

秋長

片雪のまゝにちりて花を

熊

雪のまゝにちりて花を

水字若菜

清根

春のまゝにちりて花を

澤若菜

儀貞

考たてい種をのれくこわめ子。七てかこみよるまつて

假菴

のつらさけの法此種をふいていおまむ神をのり

野若菜

守唯

野のつらさけの法此種をふいていおまむ神をのり

高みつね種海をまら種のをちる指せん風をぬま

名所若菜

清人志次

ちまをふらたらまら種のをちる指せん風をぬま

清根

湖のふお種をぬるおと指ひけく年けり

春雪

重高

のれくこま海をぬるおと指ひけく年けり

直好

是りのふま種をぬるおと指ひけく年けり

斐隆

きれおこゆりか海をぬるおと指ひけく年けり

二月雪

相一

きれおこゆりか海をぬるおと指ひけく年けり

強雪

清人志次

しよの種をぬるおと指ひけく年けり

享壽

おはえやわ種をぬるおと指ひけく年けり

晴弼



白雲を去年より袖に巻きけりなほけりし強けり

秋長

いづれ海へあゆむてはのほけりしあきらまのり

兼重越後

まはらふらんをわがこころをきしめしは

清根

まをみよもまをみよもやゆえん清のまを

周 辺 弥 書

御書よむしこの海をわがけりし

野 弥 書

よもそえやるをむらぬのころまはらふ

清樹

いしこころをわがこころをわがこころ  
餘 冥 月

よけやぬあのかうしつらふのころ

梅

後 志 氏

よらちりたる梅の影をうらむる

よらちりたる梅の影をうらむる

時子清方

月影のそよよもやる梅の影をうらむる

勝 祿

よらちりたる梅の影をうらむる

若 市 梅

真 雄

根の事、枝の事、葉の事、年々の事、梅の事、雪の事

清賢

雪とあへ誰えとん言ふも、あはれ梅の枝、梅の葉

良盛

今年より、梅の枝、梅の葉、梅の事、梅の事、梅の事

重高

梅系、たうし、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事

清根

嗚呼、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事

重見

梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事

自休

梅系何方

梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事

梅系

梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事

三樂

梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事

梅系

梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事

観山

梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事

清根

梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事

梅系、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事、梅の事

梅系

重信

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる  
毎年豊梅 刀美子

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる  
折梅 観山

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる  
梅の一枝おとやまらる時 重見

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる  
子梅 謔人志

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる  
清樹 桃沢

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる  
清樹

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる  
玄如法海

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる  
謔人志

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる  
繁樹 寄毫

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる  
清樹 景

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる  
望樹

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる  
能更

部

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる

よめつけを名の松竹梅をい神なりしよ梅のつとむる



雪の舞を詠ふはまのよき舞をいひぬ梅のこころ

晴々梅

清根

この世は夢なりぬこころ梅のこころは清くはれぬ

月前梅

知晴大塚

梅のこころはこころのこころのこころのこころのこころ

清根

梅のこころはこころのこころのこころのこころのこころ

清月上梅系

法顔

雪のこころはこころのこころのこころのこころのこころ

隣り梅

清根

ちりちりと吹雪のこころはこころのこころのこころのこころ

雪のこころはこころのこころのこころのこころのこころ

ら家梅

後人

雪のこころはこころのこころのこころのこころのこころ

は梅

嘉和邦

梅のこころはこころのこころのこころのこころのこころ

梅欲散

惠岳

雪のこころはこころのこころのこころのこころのこころ

庭梅

千益

雪のこころはこころのこころのこころのこころのこころ

惟学

雪のこころはこころのこころのこころのこころのこころ

美我比位田

梅

梅のこころはこころのこころのこころのこころのこころ

あきなるふらふらこころよさを梅色とくひたりちるまのなり

栞

唐民

神のふらふら梅のさるこころよさを梅色とくひたりちるまのなり

親山

さき梅のさる梅色とくひたりちるまのなり

孝壽

うらさき梅のさる梅色とくひたりちるまのなり

孝壽

まづ梅のさる梅色とくひたりちるまのなり

まづ柳のさる梅色とくひたりちるまのなり

心善子

梅のさる梅色とくひたりちるまのなり

栞 梅 春 色

清意

まづあさしき神のさる梅色とくひたりちるまのなり

春 柳 風 輝

重見

うらさき梅のさる梅色とくひたりちるまのなり

紀成

まづ梅のさる梅色とくひたりちるまのなり

後人

梅のさる梅色とくひたりちるまのなり

まづ梅のさる梅色とくひたりちるまのなり

西院中 柳 輝

久敏

栞 梅のさる梅色とくひたりちるまのなり

門 柳

祐之

くさくさしりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

池を柳

諸人よ

池水のまじりしりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

池柳 修水

清根

玉物のまじりしりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

河を柳

重樹

河の流れまじりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

行路柳

直好

及のまじりしりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

まじりしりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

若草

三葉

まじりしりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

草漸青

知紀

玉のまじりしりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

春草

讀志氏

海みりしりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

同早薇

高寿

雉のまじりしりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

連気

鳥越の道しりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

讀志氏

のまじりしりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

山早薇

晴林

糸くまのまじりしりしりしては *Quercus* の *sessifolia* の *var. pedunculata* の *var. pedunculata*

いよいよ春の気配が  
あふれわたる中  
清樹 記成

今更にあつた春の  
閑中 春の暇

さあさあ春の  
高野

花の咲く春の  
清念

あけびの咲く春の  
志雄

流のつぎに春の  
清のつぎ

水郷春

三葉

水のほとけに春の

春の月

嘉邦

あけびの咲く春の

Springer's ...

悲雄

あけびの咲く春の

あけびの咲く春の

清念

あけびの咲く春の

あけびの咲く春の

意誠

あけびの咲く春の

玄如

うらまひ物ゆけのつらさのまはるるを  
こころのちかやうにやうやうの影を  
おぼしめし

親山

さるるあはれぬるのまはるるを  
おぼしめし

直好

いづるまはるる月おぼしめし  
おぼしめし

重見

さくみく新をうらまひのまはるるを  
おぼしめし

後念

ふらふらまはるる月おぼしめし  
おぼしめし

おぼしめし

おぼしめし

重樹

あはれぬる月おぼしめし  
おぼしめし

韶

さくみく新をうらまひのまはるるを  
おぼしめし

春曙月

さくみく新をうらまひのまはるるを  
おぼしめし

夜春月

信岩

さくみく新をうらまひのまはるるを  
おぼしめし

遠山春月

さくみく新をうらまひのまはるるを  
おぼしめし

遠山春月

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

涼山春月

正月

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

山顔春月

連流

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

春の花月夜

永知

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

春雨

重見

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

斐雄

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

資雄

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

観山

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

言下真

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

誘志氏

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

时子卿方

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

吉如

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

三樂

何れも春月夜歌のよ 正月夜歌のよ

ふるまゐるひきつらぬまゝあるは月夜歌のよ

うらたふりてはるの夜はあけのついでにさかすか

夕春雨

志雄

あつたふりてはるの夜はあけのついでにさかすか

夕春雨

清樹

あつたふりてはるの夜はあけのついでにさかすか

夜春雨

惟学

あつたふりてはるの夜はあけのついでにさかすか

春の夜はあけのついでにさかすか

意識

あつたふりてはるの夜はあけのついでにさかすか

帰宿

惟学

あつたふりてはるの夜はあけのついでにさかすか

斐雄

あつたふりてはるの夜はあけのついでにさかすか

重見

あつたふりてはるの夜はあけのついでにさかすか

観山

あつたふりてはるの夜はあけのついでにさかすか

享寿

あつたふりてはるの夜はあけのついでにさかすか

知紀

あつたふりてはるの夜はあけのついでにさかすか

後志

あつたふりてはるの夜はあけのついでにさかすか

斐雄

いそぎに申す所は越後の様もあらざるも

夕陽雁

勝杯

いそぎに申す所は越後の様もあらざるも  
よのあけのそらに 雁の影もあらざるも  
鳥 鳥の影もあらざるも  
鳥 鳥の影もあらざるも  
鳥 鳥の影もあらざるも

第の指はあはれなるも  
鳥 鳥の影もあらざるも

夜帰雁

清樹

いそぎに申す所は越後の様もあらざるも  
鳥 鳥の影もあらざるも

重見

夕月おのれはあはれなるも  
鳥 鳥の影もあらざるも

夜帰雁

幸文

いそぎに申す所は越後の様もあらざるも  
鳥 鳥の影もあらざるも

月前帰雁

知妙也

いそぎに申す所は越後の様もあらざるも  
鳥 鳥の影もあらざるも

帰雁連

幸順

いそぎに申す所は越後の様もあらざるも  
鳥 鳥の影もあらざるも

帰

清根

いそぎに申す所は越後の様もあらざるも  
鳥 鳥の影もあらざるも

帰雁遠

いそぎに申す所は越後の様もあらざるも  
鳥 鳥の影もあらざるも

遠帰雁

景周

いそぎに申す所は越後の様もあらざるも  
鳥 鳥の影もあらざるも

雲同帰雁

紀成

いそぎに申す所は越後の様もあらざるも  
鳥 鳥の影もあらざるも



海上帰社

千登

しんせうきかいのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

久致

あまのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

百首歌よみ

吉如

あまのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

詠不知

秋長

あまのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

春駒

五子

孝一

あまのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

澤春駒

忠友

あまのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

いけみちのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

野介春駒

秀雄

あまのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

雛

孝順

あまのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

野雛

法願

あまのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

雲雀

斐雄

あまのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

重見

あまのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

紀成

あまのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

夕雲雀

常清

くまきおの限りやうらたんしんせいのなる夕雲雀

重樹

山の若代のれ法け中にあけくみえくのひるれ

重見

道の安き生の中たむらあひさうくさう夕雲雀

三葉

よあきふらふひくひえくしんせいの乃松たれま

清根

よあきあふらふひくひえくしんせいの乃松たれま

三葉

よあきあふらふひくひえくしんせいの乃松たれま

楳

重見

雪のくはんとてら楳けこはのけのけりけり

三葉

梅のきこむらむらにわのけのけりけり

玄如

うらむらうらむらうらむらうらむらうらむらうらむら

三葉

いさむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

知紀

うらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

十一

梅のきこむらむらにわのけのけりけり

熊手

昔の程は水はあつたよきとていふも  
詩花 後人不知

流るる水はあつたよきとていふも

流るる水はあつたよきとていふも  
流るる水はあつたよきとていふも

初山

昔の程は水はあつたよきとていふも

純言

昔の程は水はあつたよきとていふも

道好

昔の程は水はあつたよきとていふも

清根

昔の程は水はあつたよきとていふも

尋花

新樹 安宅

いづれも花はあつたよきとていふも

守唯

いづれも花はあつたよきとていふも

自休

いづれも花はあつたよきとていふも

道好

いづれも花はあつたよきとていふも

幸文

いづれも花はあつたよきとていふも

高壽

いづれも花はあつたよきとていふも

花

花洲 閑

花聖園

三樂 和田

昔時山道のありを身にしめしむるよふ方のこころはす

勝杯

ちりけりおもひ似たる様をさかしのよきものなりけり

山花

三樂

ふきのたきひくしゆの梅をみよえんはみあぬを孔

靚山

よし時よよきしむるもさかすけけり梅をみ

節

ふの影のさかすけりおもひぬるやまのこころなる心

民一

けさけり花のさかすけり梅をみよえんはみあぬを孔

みかたのこころなる心

快存

このころは花の梅をみよえんはみあぬを孔

信秀 丸山

さかすけり花の梅をみよえんはみあぬを孔

義比留

さかすけり花の梅をみよえんはみあぬを孔

法嶺

さかすけり花の梅をみよえんはみあぬを孔

観山

さかすけり花の梅をみよえんはみあぬを孔

那

さかすけり花の梅をみよえんはみあぬを孔

民一

いづれもさきかたの後得るを原のまよわさば  
水もさかた

いづれもさかたのゆゑにうらなうはれもたれを  
雪子井上

いづれもさかたのゆゑにうらなうはれもたれを  
尹諄

いづれもさかたのゆゑにうらなうはれもたれを  
玄如

いづれもさかたのゆゑにうらなうはれもたれを  
清根

いづれもさかたのゆゑにうらなうはれもたれを  
久敬

いづれもさかたのゆゑにうらなうはれもたれを  
清根

いづれもさかたのゆゑにうらなうはれもたれを  
知紀

いづれもさかたのゆゑにうらなうはれもたれを  
直好

いづれもさかたのゆゑにうらなうはれもたれを  
清根

いづれもさかたのゆゑにうらなうはれもたれを  
斐文雄

いづれもさかたのゆゑにうらなうはれもたれを  
御殿山

神のさうらうにまらちかあるとむらさきやうん  
まの山法師ようらあま

まの山法師ようらあま  
まの山法師ようらあま  
あつ花

あつ花  
あつ花  
あつ花

あつ花  
あつ花  
あつ花

あつ花  
あつ花  
あつ花

あつ花  
あつ花  
あつ花

月と花あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花  
あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花

あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花  
あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花

あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花  
あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花

あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花  
あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花

あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花あつ花

幸文

梁出法師  
清人不知

直好

残香

幸文

秀雄

斐雄

清人不知

寛坂上

直好

味存

幸文

清人不知

直好

残香

花雪  
道好

花浪  
玄如

花似雪  
清玄

花下忘歸  
刀美子

花下忘歸  
常清

花下忘歸  
高足

花開更情君  
斐雄

雨巾花  
久致

雨巾思花  
古直

雨巾思花  
享壽

雨巾思花  
永知

雨巾思花  
観山

花開風巾  
卷在

おれなるにうらなれぬ梅をよの半陰のこ地社を

まをわのころら

方忠

あふくしきのかれあやまちはまはり梅をよらん  
よもゆきあるる梅をよらんよのこらんねき

百首歌よみくち

淡人不知

しんれもや梅のころらをよらんくき路ま

避梅

文秋

世を捨てりみよの梅をよらんあまをよらん

信花恨風

斐雄

くさくさみら梅のよ風をよらんあまをよらん

花の中首の中

淡人不知

世の中をよらんあまをよらんあまをよらん

題不知

康哉

七言のまに九言のゆめをよらんあまをよらん

道好

梅をよらんあまをよらんあまをよらん

くさくさあめ梅をよらんあまをよらん

あまのまをよらんあまをよらんあまをよらん

あまのまをよらんあまをよらんあまをよらん

あまのまをよらんあまをよらんあまをよらん

あまのまをよらんあまをよらんあまをよらん

あまのまをよらんあまをよらんあまをよらん

あまのまをよらんあまをよらんあまをよらん

あまのまをよらんあまをよらんあまをよらん



花のたぐい物に神像の都の如 知紀

あらしあけむあらしを侍らひはまのよもきし旅のまじり  
三月廿日 平野より *あらしあけむあらしを侍らひはまのよもきし旅のまじり*

正賢

少あつたむしとく神をよきとみるまにちる後、那  
とるの故より後、本社より後、それの海をあらし

詞書あり

正行院

日新のそめらまよとみるかたの神をくつりて

松雲をよとむらひて

清人不知

之体はゆえにのよのよのそめらまよとみるかたの神をくつりて  
長岡より此所の花をよとむらひて、池のほとりより  
廣よりよとむらひて、海よりよとむらひて、よとむらひて

直好

あまのついでなるもの様をくつりて、けしきのよとむらひ

けしきのよとむらひ、梅をよとむらひ、よとむらひ、よとむらひ

よとむらひ、此里にゆき、よとむらひ、よとむらひ、よとむらひ

よとむらひ

紀成

あまのついでなるもの様をくつりて、よとむらひ、よとむらひ

あまのついでなるもの様をくつりて、よとむらひ、よとむらひ

あまのついでなるもの様をくつりて、よとむらひ、よとむらひ

永知

あまのついでなるもの様をくつりて、よとむらひ、よとむらひ

惜花

儀貞

あまのついでなるもの様をくつりて、よとむらひ、よとむらひ

清樹

*あまのついでなるもの様をくつりて、よとむらひ、よとむらひ*  
あまのついでなるもの様をくつりて、よとむらひ、よとむらひ  
あまのついでなるもの様をくつりて、よとむらひ、よとむらひ

名残ありてはらう花をたふさくはなれり

花道風

富足

梅をれりてはなれりてはなれりてはなれり

花似雪

後人不知

梅の枝よきと梅を本まゝのりてはなれり

雨中一花

勝祿

梅をれりてはなれりてはなれりてはなれり

清根

梅の枝をたふさくはなれりてはなれり

花似雪

惠子 伊賀野

梅の枝をたふさくはなれりてはなれり

花

梅花入道

重高

梅の枝をたふさくはなれりてはなれり

閑庭落花

信敦

梅の枝をたふさくはなれりてはなれり

梅の花門

殊多

梅の枝をたふさくはなれりてはなれり

落花

後人不知

梅の枝をたふさくはなれりてはなれり

花

梅の枝をたふさくはなれりてはなれり

梅の枝をたふさくはなれりてはなれり

晴杯

花

花



苗代あまのまゝのたのめたる城

城

少るうらむむの法もたのめたる城

法もたのめ

少島の地は玉座うねる城の意は

春

民

而れと岩戸柏の隈は城の山

夕陸

那樹

子つららむむ社傍色や田の城は物や

池陸

孫若

高やうらむむの池は城の山

蝶

法もたのめ

本のまゝのまゝの城は城の山

春

明阿

紫のまゝのまゝの城は城の山

燕

清根

徒然とむらおまのまゝの城は城の山

燕

清根

花うらむむのまゝの城は城の山

躑躅

永知

まゝのまゝのまゝの城は城の山

清水の躑躅とむらおまのまゝの城は城の山

紫のまゝのまゝの城は城の山

利未の花

幸文

多きものまの葉のよのさくらをよのさくらよのさくらよのさくら

牡丹

幸子

ふらふら草のよのさくらよのさくらよのさくらよのさくら

牡丹

徳人不知

さくら草のよのさくらよのさくらよのさくらよのさくら

牡丹 浮水

秀雄

牡丹のよのさくらよのさくらよのさくらよのさくら

百首歌よみかた

徳人不知

池のよのさくらよのさくらよのさくらよのさくら

題不知

池のよのさくらよのさくらよのさくらよのさくら

山吹

幸文

山吹のよのさくらよのさくらよのさくらよのさくら

徳人不知

山吹のよのさくらよのさくらよのさくらよのさくら

山吹のよのさくらよのさくらよのさくらよのさくら

嘉邦

山吹のよのさくらよのさくらよのさくらよのさくら

直好

山吹のよのさくらよのさくらよのさくらよのさくら

善宅

山吹のよのさくらよのさくらよのさくらよのさくら

善壽

わさくらよのさくらよのさくらよのさくらよのさくら

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

海子

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

長煙

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

山吹

清根

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

雨中山吹

假菴

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

河山吹

味存

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

法嶺

涼山吹

昌敷

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

猿

晴林

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

三樂

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

重見

おむらひのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

紫雲

享壽

紫雲の草花のうらみの海のふききりしるものもつゆあ

松上ノ株

語人不知

芳よりつるまき咲り花をみればそのまじや松をみれば

義比

花のまじけりてまじい時葉なる松をよみていふ花はるけを

刀美子

ふるまひいひのさかんに松の市来花をみぬのたの

舞掛松

久敬

山々の花は松をみれば永く可なりと云ふまじを

舞花に随風

可官

松花の香もたてぬまじをみればいづれ花はのた

雨夜思舞花をとりよるを

香宅

妹よりいさよをとりよるまじを相ひよぬれば花はのた

百有歌よみくちりよ

秋長

語人不知

一花をよみていさよをみれば花はのたまじをみれば

題不知

時子所考

花はのたつるたるまじをみれば花はのたまじをみれば

遠空平紫雲

重見

紫雲のまじけりていさよをみれば花はのたまじをみれば

水色ノ株

三樂

花はのたつるたるいさよをみれば花はのたまじをみれば

紫雲のまじけりていさよをみれば花はのたまじをみれば

花はのたつるたるいさよをみれば花はのたまじをみれば

方忠

名所傳

後のえれ枝のさくらばさくらみりりさくらさくらさくら  
後人不知

あーさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら  
後人不知

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら  
法願

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら  
後人不知

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら  
後人不知

あやめはさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら  
後人不知

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら  
後人不知

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら  
後人不知

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら  
後人不知

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら  
後人不知

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら  
後人不知

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

情さくら

法願

尚春不注

情存

春おゆ

芳子

春不知

敏樹



古香 <sup>升</sup>

空のふきくささけのさよふのゆいさきあめあふり  
暮春の花

常もこれに都の後とせぬらむらまのこもさし  
あめつはのゆあさあまのりれりまをせんあむさき

嘉邦

あはさのうらなのおと後とせぬらむらまのこもさし

惠子

山川のつるまをいさかふをまのちりやこころるあふ  
*あはさのうらなのおと後とせぬらむらまのこもさし*

後人不知

たねあはれおかしうてさるふのころもさし  
か美子

月よみくちのあふらふのこころせらむを  
暮春の月 <sup>白月</sup>

あめつはのゆあさあまのりれりまをせんあむさき  
暮春の水 <sup>千重</sup>

五柳の系をいさかふをまのちりやこころるあふ  
暮春の春 <sup>観山</sup>

あめつはのゆあさあまのりれりまをせんあむさき  
浦春の春 <sup>勝杯</sup>

藤竹の春をいさかふをまのちりやこころるあふ  
暮春の春

よのつらふくちの後のさしあふさくあふさく  
三月 <sup>連歌</sup>

らちんらちんは花のまゝにさかすまのまゝに花のまゝにさかすまのまゝに

兼重越後

まのやちりりんさかすまのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝに

兼重

さの花のまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝに

兼重

乃の清き水にさかすまのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝに

直好

是の向のまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝに

法樹

はらけのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝに

後人不知

正上春

春夜短

春天

浪連のまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝに

障

押連のまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝに

兼重

門のまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝに

長好

昔のまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝに

兼重

るのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝに

兼重

ついでにさかすまのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝに

良縁

四角

まのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝにさかすまのまゝに

春山



桂園宗匠撰草稿  
夏歌

首夏

夏の来りまの杜れあふまゝいそやうの樹の影にささるる  
まゝいそやうあふまゝいそやうの樹の影にささるる

三樂

あふまの樹の影にささるるまゝいそやうの樹の影にささるる

清根

敏樹

野守のまゝいそやうの樹の影にささるるまゝいそやうの樹の影にささるる

首夏風

三樂

まゝいそやうの樹の影にささるるまゝいそやうの樹の影にささるる

資雄



Handwritten notes in red ink at the top of the page, including the characters "新樹" (Shinju).

夕日あついでに社卵をのこすわらうとあらはる  
卵花似目 三樂

卵をまらひけしむ花けの月の時しむら社を  
卵花隠跡 久教

卵をのみれおしつるい下りてしむら  
卵花 清根

卵をのこすわらうとあらはる  
閑庭卵花

卵をのこすわらうとあらはる  
田家卵花 春樹

卵をのこすわらうとあらはる  
溪卵花 清樹

卵をのこすわらうとあらはる  
標 清人不知

卵をのこすわらうとあらはる  
康民

卵をのこすわらうとあらはる  
新樹 景周

卵をのこすわらうとあらはる  
新樹 殊号

卵をのこすわらうとあらはる  
新家新樹 直好  
清根



あまのこころはなほなほとて  
まはるる花の香もなほとて  
まはるる花の香もなほとて  
まはるる花の香もなほとて

山重

幸文

あまのこころはなほなほとて  
まはるる花の香もなほとて

盧橋

昌敷

あまのこころはなほなほとて  
まはるる花の香もなほとて  
まはるる花の香もなほとて  
まはるる花の香もなほとて

阿え

あまのこころはなほなほとて  
まはるる花の香もなほとて

相一 平賀  
安藝人

あまのこころはなほなほとて  
まはるる花の香もなほとて

親山

惟孝

文秋

あまのこころはなほなほとて  
まはるる花の香もなほとて  
まはるる花の香もなほとて  
まはるる花の香もなほとて

後人不知

清根

閑庭の梅



川崎のたもとに梅のつぼみは  
あけのけしは  
古の

あけのつぼみは梅のつぼみは  
寛

あけのつぼみは梅のつぼみは  
假菴

あけのつぼみは梅のつぼみは  
清樹

あけのつぼみは梅のつぼみは  
三樂

あけのつぼみは梅のつぼみは  
法樹

五月五日  
あけのつぼみは梅のつぼみは

あけのつぼみは梅のつぼみは  
直好

あけのつぼみは梅のつぼみは  
敏樹

あけのつぼみは梅のつぼみは  
千登

あけのつぼみは梅のつぼみは  
長経

あけのつぼみは梅のつぼみは  
三樂

あけのつぼみは梅のつぼみは  
閑居五月雨

この海はさうあつた。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

山家五月雨

殊多

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

社五月雨

彦律

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

川五月雨

諸人不知

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

溪五月雨

安村

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

近子

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

山手は忽あふ

時鳥

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

舟の物もある。さうなつた。さうなつた。さうなつた。

兼重 越後

とくはよゝゝのあはれを時々のあはれにひきかへさん

重見

や井まへ舟のまはれを時々のあはれにひきかへさん

守雄

小舟のまはれを時々のあはれにひきかへさん  
よゝゝのあはれを時々のあはれにひきかへさん

後人不知

もまのあはれを時々のあはれにひきかへさん  
よゝゝのあはれを時々のあはれにひきかへさん  
よゝゝのあはれを時々のあはれにひきかへさん

子又壽

日新のあはれを時々のあはれにひきかへさん

尋時鳥

時鳥のあはれを時々のあはれにひきかへさん

斐雄

待部云

よゝゝのあはれを時々のあはれにひきかへさん

清樹

清根

時鳥のあはれを時々のあはれにひきかへさん

享壽

時鳥のあはれを時々のあはれにひきかへさん

斐雄

人傳部云

時鳥のあはれを時々のあはれにひきかへさん

享壽

一 卯月時鳥の歌

維中

一 卯月時鳥の歌

元成

一 卯月時鳥の歌

千益

一 卯月時鳥の歌

清和

時鳥何方

一 卯月時鳥の歌

時鳥

一 卯月時鳥の歌

頼厚

一 卯月時鳥の歌

重見

一 卯月時鳥の歌

儀貞

一 卯月時鳥の歌

自休

一 卯月時鳥の歌

該人不知

一 卯月時鳥の歌

一 卯月時鳥の歌

一 卯月時鳥の歌

一 卯月時鳥の歌

違



昌秀

あはれなるはなはなをわたりて  
雲河時鳥

あはれなるはなはなをわたりて  
月前時鳥

あはれなるはなはなをわたりて  
守雄

あはれなるはなはなをわたりて  
義比

あはれなるはなはなをわたりて  
親心

相一

時違

あはれなるはなはなをわたりて  
月時鳥

古香

あはれなるはなはなをわたりて  
雨中時鳥

享寿

あはれなるはなはなをわたりて  
親心

親心

あはれなるはなはなをわたりて  
杜鰭類

公通卿

あはれなるはなはなをわたりて  
会樹

享寿

まはるはのこころをいふにふしむるたふしむる

露

こころのこころをいふにふしむるたふしむる

杜若 遍

寿性 山本

こころのこころをいふにふしむるたふしむる

俊教 飯野

こころのこころをいふにふしむるたふしむる

秀雄

こころのこころをいふにふしむるたふしむる

諸人不知

こころのこころをいふにふしむるたふしむる

斐雄

山崎 鳥

こころのこころをいふにふしむるたふしむる

享壽

こころのこころをいふにふしむるたふしむる

帰原

こころのこころをいふにふしむるたふしむる

三樂

こころのこころをいふにふしむるたふしむる

重見

こころのこころをいふにふしむるたふしむる

正行院の君は海草の中は回宗時鳥

こころのこころをいふにふしむるたふしむる

こころのこころをいふにふしむるたふしむる

一





卯のうらぶらの花に 枯葉のうらぶらとてさる

時鳥掃

清根

笑のくはるるも 花のうらぶらとてさる

正行院のうらぶらとてさる

うらぶらとてさる 花のうらぶらとてさる

斐雅のうらぶらとてさる

うらぶらとてさる

時鳥のうらぶらとてさる

題不知

時子御方

時鳥のうらぶらとてさる

清人不知

あゝあゝとてさる

廿葉

直好

神のうらぶらとてさる

玄如

あゝあゝとてさる

假菴

清人のうらぶらとてさる

清樹

神のうらぶらとてさる

清人不知

神のうらぶらとてさる

早苗

あゝあゝとてさる

うねりたれ流のあはらるるあまのこもあまのこも  
しららるるあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

希芳

名所

梅の枝のあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

高津

入るるあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

高津

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

高津

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

高津

月余の詩

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

高津

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

高津

水鏡の詩  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

高津

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

高津

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

高津

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

高津

名所 鴨川

高津





岬の燈臺火

幸文

やうらうらとたつた好むちの火氣はうらうらと本のこと

海辺好む中

千益

浦を多くしく芦花の夕潮あきりや禁をさへん  
夕まききりせきあきり好むちの芦花うらうらと

夏月

後人不知 嘉之

夕まきのあききり好むちのいまうらうらと

明阿

あきらむ月をえよの好むちのあきらむ月をえよ

紀成

好むちのあきらむ月をえよの好むちのあきらむ月

直好

夏月

あきらむ月をえよの好むちのあきらむ月をえよ

玄如

あきらむ月をえよの好むちのあきらむ月をえよ

三樂

あきらむ月をえよの好むちのあきらむ月をえよ

連流

あきらむ月をえよの好むちのあきらむ月をえよ

資権

あきらむ月をえよの好むちのあきらむ月をえよ

短夜月

待祿

あきらむ月をえよの好むちのあきらむ月をえよ

直好

夏のふれあふまはるく月いふにきんをあら

夏月明

重見

夏のあはれ月あふれさるるあけのやき。露のまを

夏月涼

直好

あけのあふれ月の影ふれいふまきき秋風あ

夏月易明

明阿

あけのあふれ月の影ふれいふまきき秋風あ

樹陰夏月

連乱

あけのあふれ月の影ふれいふまきき秋風あ

夏河月

永知

あけのあふれ月の影ふれいふまきき秋風あ

川夏月

清根

あけのあふれ月の影ふれいふまきき秋風あ

正純

あけのあふれ月の影ふれいふまきき秋風あ

水上夏月

維中

あけのあふれ月の影ふれいふまきき秋風あ

浦夏月

連乱

あけのあふれ月の影ふれいふまきき秋風あ

六月十三日の夜

假菴

あけのあふれ月の影ふれいふまきき秋風あ

三日月の夜

幸文

あけのあふれ月の影ふれいふまきき秋風あ

夏草の夜

後人永知



垣根夕顔

明河

月影のささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ

水柳夕糸

正賢

雪のけしきゆのささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ

蓮

好古

池の面をさすのささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ

三葉

大木のささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ

お蓮

親山

ちりちりささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ

見蓮

誇人不知

ちりちりささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ

池蓮

定真家

池のささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ

池上蓮

連乱

池のささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ

水室

誇人不知

池のささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ

池のささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ

親山

池のささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ

水室

清樹

池のささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ

水室

正相

池のささめく音流るはの原にさゆりかたのあはれ



水室忘象

清樹

とらふもよをさるるのむをいふちの法よのあひるをいれ  
五月蟬 玄如

る蟬のいよをいふをたのしんちすひまもさきちのあはれ  
樹上蟬 公慈朝臣

あをまのしらねをいふみれつをいふもる蟬のあはれ  
蟬のあはれつをいふもる蟬のあはれ

雨申蟬 時存  
あはれをいふのあはれをいふもる蟬のあはれ

雨後蟬 後人不知  
る蟬のあはれをいふもる蟬のあはれ

久致

とらふもよをさるるのむをいふちの法よのあひるをいれ

雨の後蟬のあはれをいれ

後人不知

あはれをいふのあはれをいふもる蟬のあはれ

蟬のあはれをいれ

道好

あはれをいふのあはれをいふもる蟬のあはれ

蟬のあはれをいれ

あはれをいふのあはれをいふもる蟬のあはれ

春良

あはれをいふのあはれをいふもる蟬のあはれ

富子仲方

あはれをいふのあはれをいふもる蟬のあはれ

蟬のあはれをいれ

清根

あつちのまふあつちのまふのまふに村をいふまふあつち

三樂

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

重見

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

直好

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

信岩

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

清海

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

つたて

観心

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

享寿

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

重見

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

清人不知

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

清樹

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

元名

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

あつちのまふあつちのまふあつちのまふあつちのまふあつち

市中夕立

可官

夕立の雨降年々とて其の雨はいつら人共いふ事なき事あり

多野

後人不知

この夕立はしるすの夕立の雨は雨の降るにまよひし事

六月廿七日

惠岳

夕立の雨降るに其の雨は雨の降るにまよひし事

多野

玄如

夕立の雨降るに其の雨は雨の降るにまよひし事

昭日

夕立の雨降るに其の雨は雨の降るにまよひし事

あはれ

幸文

夕立の雨降るに其の雨は雨の降るにまよひし事

山中夕立

多野

山中夕立

直好

夕立の雨降るに其の雨は雨の降るにまよひし事

多野

千益

夕立の雨降るに其の雨は雨の降るにまよひし事

関中

後人不知

夕立の雨降るに其の雨は雨の降るにまよひし事

泉

守雌

夕立の雨降るに其の雨は雨の降るにまよひし事

守雌

清樹

夕立の雨降るに其の雨は雨の降るにまよひし事

三樂

三樂

夕立の雨降るに其の雨は雨の降るにまよひし事



あつちの地をまわらぬにたふす村のこころに  
と里樹

あつちの地をまわらぬにたふす村のこころに  
知紀

あつちの地をまわらぬにたふす村のこころに  
守唯

あつちの地をまわらぬにたふす村のこころに  
守唯

あつちの地をまわらぬにたふす村のこころに  
知紀

川風夜涼

聞豪 蕨屋 意也寺

あつちの地をまわらぬにたふす村のこころに  
清秋

あつちの地をまわらぬにたふす村のこころに  
清秋

あつちの地をまわらぬにたふす村のこころに  
清秋

あつちの地をまわらぬにたふす村のこころに  
清秋

あつちの地をまわらぬにたふす村のこころに  
清秋

あつちの地をまわらぬにたふす村のこころに  
清秋

題名知

忠友

草子院のこころをさうさうに以て面をき想はるあはれなり  
樹陰隣秋

清樹

りてこの心ゆくまきあかぬる秋にうれあへるまきまき  
緑樹陰

重見

明せきさあけしきけりともあはれけりこころ  
秋を暮る

安壽

高きのもけりまきあかぬる秋にうれあへるまきまき  
秋を暮

報山

高きまきまきあかぬる秋にうれあへるまきまき  
秋を暮

假菴

あまの

早海

あまのこころをさうさうに以て面をき想はるあはれなり  
あまのこころをさうさうに以て面をき想はるあはれなり

六月後

文秋

あまのこころをさうさうに以て面をき想はるあはれなり  
あまのこころをさうさうに以て面をき想はるあはれなり

連流

あまのこころをさうさうに以て面をき想はるあはれなり  
あまのこころをさうさうに以て面をき想はるあはれなり

安村

あまのこころをさうさうに以て面をき想はるあはれなり  
あまのこころをさうさうに以て面をき想はるあはれなり

正行院

何市後

あまのこころをさうさうに以て面をき想はるあはれなり  
あまのこころをさうさうに以て面をき想はるあはれなり

後人不知

今更に世にあらざらん

貞經

花のよきものぞかたじけなく

花のよきものぞかたじけなく

直好

花のよきものぞかたじけなく

花のよきものぞかたじけなく

信人不知

花のよきものぞかたじけなく

昌秀

花のよきものぞかたじけなく

昌秀

花のよきものぞかたじけなく

昌秀

猪熊

花のよきものぞかたじけなく

久致

花のよきものぞかたじけなく

信岩

信岩

花のよきものぞかたじけなく

昌秀

信人不知

花のよきものぞかたじけなく

昌秀

真澄

花のよきものぞかたじけなく

昌秀

信人不知

増三の書、あまのりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの

百五十八

清根

増のおれりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの

百五十九

清根

あまのおれりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの

百六十

清根

あまのおれりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの

百六十一

清根

あまのおれりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの、あまのりふらふの





